

うらやす

P-Life

ひとひと
女と男が認めあい共にかがやくまち・うらやす



特集

私たちの3.11を振り返る

座談会出席者 田頭文子さん・関口泰一さん
松岡香織さん・青木春江さん

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から半年以上が経ちました。今だから語れる3.11—浦安市民4人に当時のことを振り返ってもらいました。

都内から家に帰れない、
職場は大混乱
浦安市内はみるみる液状化

田頭 あの日、私たち夫婦は職場が都心なので、家に帰れなくなっていました。保育園に通っている息子は、連絡がとれたママ友に預かってもらうことができませんでした。帰宅できたのは翌12日の朝。夫は普段から徹夜で仕事をすることもあり、放っておいたら何日でも会社に泊まり込んでしまうと思いい、私から誘って一緒に帰って来ました。

青木 私も都内の勤め先にいました。が、早退してよいことになったので帰宅困難者にはなりませんでしたが、でも帰り着くまでは大変でしたよ。電車も動いていないので、バスを乗り継いで、まず東陽町へ行き、そこからまた新木場に移動し、その後はもちろん、浦安まで歩きます。会社から自宅まで5時間以上かかりました。移動中に困ったのはトイレ。駅はどこもロックされていて、構内に入れません。新木場に到着してやっと、外の公衆トイレに入ることができました。それから、新木場を出る時に駅員に浦安までの道順をたずねたら、危ないから歩かない方がいいと言われまして。電車は止まっているし、休む場所もない。吹きさらしの中、どうすればいいのよ！って感じでした。ね。たまたま同じ方向に向かう人がいたので、一緒に帰って来ましたけど、今

度また歩いて帰ることになっても大丈夫なように、震災後、会社から自宅までの詳しい地図を用意しました。

関口 私は職場も自宅も市内にあるので帰宅の困難さは味わいませんでした。が、あの日にはホントに大変でした。ねえ。職場内も物が落ちたり、壊れたりして散乱し、すぐには片付けられない状態でした。それに、職場が駅前にあるので、夜になると、帰宅できない人が駅周辺に溢れて大混乱になりました。そこで、私どもの職場では一部を開放したり、おにぎりを作って提供したりしました。

だから、職住接近でも、なかなか自宅には帰れませんでしたよ。妻の弟がたまたま自宅近くにいたので、様子を

見に寄ってくれたのがありがたかったですね。

松岡 浦安市内でも、場所によって状況が違います。うちのマンションは、断水はしましたが、建物や周囲の環境に被害はありませんでした。でも、夫の実家は、液状化で水や砂が吹き出し、家の周囲に50センチ以上も泥が溜まっています。家の傾きもひどくて、目を覆ってしまうほどの惨状でした。

青木 私が住んでいるマンションはそれほど大きな被害ではありませんでしたが、確かに、新木場から歩いて帰ってきた時、舞浜に近づくにつれて、道路にタールと水が出ていました。街灯も消えてしまっていて暗いのですが、液状化していることはわかりましたね。



女性には家庭の役割 男性には職場での役割が 増大した

松岡 翌日のことですけど、義理の両親と一緒にスコップを買いに行つて、それから数日間、実家の泥かきをしました。水をいっぱい含んだ泥ですから重くて、私でさえ苦労しました。還暦を過ぎた両親には、かなりの重労働だったと思います。

そんな作業の後でもすぐにお風呂に入らず、給水車からもらつてきた水を鍋で沸かして、桶に入れてお風呂代わりにして……。あの日以来、日常が日常ではなくなつてしまつた。



松岡香織さん

田頭 ホントにそつですね。便利に暮らすことに慣れてしまつた自分が情けないというか……。うちも上下水道が使えなかつたのですが、給水に行つても1時間待ち。長蛇の列ができてくるのに、給水車は空っぽになると行つてしまつて、次に来るのは3時間後ですと言われて……。それで、震災の翌日には、家族3人で県内の私の実家に逃げ込みました。夫は翌週から、何事もなかつたみ



田頭文子さん

たいに、普通に会社に出かけましたけど、私に「仕事に行く？」とは聞かなかつたですね。結局、私は1週間、出勤できませんでした。息子の保育園も被害にあつていたので、休園になつてしまつたのです。実家の母は働いてるので、息子を預かつてもらうわけにはいきません。幸い、会社が自宅作業を認めてくれたので仕事はできたのですが、やっぱり「子どものことは母親が」つて感じになつてしまいました。

ああいう大震災になると、たとえばガス会社の人は普段よりもまして、するべきことがたくさんあるじゃないですか。だから、夫にもたぶん、社会的な立場として、今だからこそやらなければいけないことがあるのだらうと思つて、「私も会社に行きたい」とは言えなかつたです。

松岡 私の夫もずっと仕事でしたよ。12日の2時半に帰つてきて、6時半には出勤しました。物流関係というところもあり、震災翌日からコープデンウィークも休み返上でした。そのため、実家の手伝いも難しく、できることは私が手伝いました。

青木 一人暮らしたと、そういう分業もできないですね。私は、昼間は

会社に行き、帰宅してから家のことを。給水は夜10時くらいまでできたので、帰つたら給水のために往復するという生活をずっとやつていました。仕事量が増えて負担にはなりませんが、会社周辺は被災していないので不自由はありませんでしたから、会社に行つていふことで気持ちが楽になる面がありましたね(笑)。

関口 ああいう状況の時は、会社においても、自分の家族のことは心配ですよ。うちにも、当時の年齢で高校2年生と中学3年生、それに2カ月の子どもがいましたから、大丈夫だろうかと何度も思いました。でも、実際には、部下が大勢いたので、部下にまず家族の安否確認をしないといふことで、自分の家族には部下の確認が取れたあとで初めて連絡しました。結局、つながらなかつたのですが。



関口泰一さん

地域での、顔見知りの ネットワークが活きた

田頭 連絡が取れないことはとても困りましたね。息子は私立保育園に

いざ使おうとしたら

2
こんなこと
ありません
でしたか

仮設トイレ
設置



夜、仮設
トイレへ

いたので連絡手段が電話しかなかつた。何度もかけましたけど、つながらなくて……。夫と連絡が取れたのも2時間後くらいでした。

それで、震災後はいろいろな情報を取れるように、浦安のメールサービ스에登録し、ツイッターもフォローするようにになりました。

青木 私も、震災後に浦安のツイッターのフォローを始めました。給水の時間とかもわかつたし。市の情報がママに流れているというのは大事ですよ。

ただ、私は浦安に長く住んでいて、サークルなどにも入っているの

特集

私たちの3.11を振り返る

こんなこと
ありません
でしたか

女は炊き出し、男は力仕事？



専門家 にきく

被災したからこそできるまちづくり

石黒武人氏

明海大学 外国語学部講師
異文化コミュニケーション学博士
第7期浦安市男女共同参画推進会議委員



震災から半年以上が経ちましたが、雨が降るとあちこちに大きな水たまりができ、浦安が受けたダメージの大きさを感じます。震災後、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業が顕著になった面があったようです。私はコミュニケーション学を専門としているので、なるほどと思うところがありました。まさに「グループ規範」が働いたのです。人は暗黙のルールに従って行動します。とくに、震災直後など、社会が1つのことに向かっている時にルールを破ることは難しい、女性が「私にだって仕事がある」、男性が「家族が1番だ」とは言いにくかったということです。ですから、行政、企業、地域、家庭での日ごろからの考え方が大切なのです。震災後の男女共同参画会議で「夫が家庭に関わり始めた」という声がありました。この震災が男女のあり方やワーク・ライフ・バランスを考えるきっかけになるとよいですね。

また、「顔見知り」の大切さも実感されたと思います。異文化コミュニケーションの視点から見ると、日本人は「内」と「外」を使い分ける傾向があります。内側には同じ考えを持つ人や職場が一緒など、自分に近い人が入り、それ以外は外側になってしまいます。多様な価値観を持つ現代に生きる私たちは、外側にもコミュニケーションを広げ、顔見知りを増やすことが重要です。

そして、復興・防災計画には女性、男性、子ども、高齢者、障がいを持つ人などさまざまな視点が必要です。しかも、その捉え方は「女性」というだけでなく、都内に勤める、子どもがいる、など多面的でなければなりません。他者を知ること、自分を知ることでもあり、違いを認め合うことにつながります。それが、今後のまちづくりへの大きな力になるでしょう。

田頭 困った時のためにネットワークをつくっているわけじゃないですが、私もママ友とか多いので、その方たちに助けてもらいました。こういう震災を体験すると、すぐに災害に備えてネットワークをつくらうという話になるけれど、そのネット



青木春江さん

友人がたくさんいます。その人たちが市内の状況をいろいろメールで教えてくれたことはとても心強かったです。

松岡 日頃から地域の人とつながりを持つことは大事ですね。今回の震災で、それをつくづく実感しました。自宅のマンションのお隣さんは一人暮らしなので、震災直後にすぐに安否確認にうかがって、余震がおさま

関口 確かに、それはありますね。私も子どもが部活でバスケットボールをやっていたので、そのお父さん同士、仲良くなって、よく連絡を取り合っています。今回もその仲間からメールをもらったので、職場にいても市内の様子がわかりました。知り合いだから、情報も信頼できるといっのはありますね。

ワークで連絡を取り合うと言っても、顔見知りじゃないと難しいような気がします、どんな人かもわからないし。

るまで、しばらく一緒にいてもらいました。「うちのお風呂使っているよ」というようなメールも夫婦でそれぞれ友人に送りました。母親だけでなく、父親同士でもそうやって声をかけ合える関係が今回の震災で活きました。



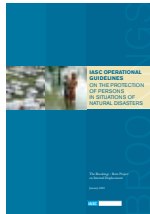
国連発

人権擁護の視点で自然災害を考える

— 自然災害発生時の被災者保護に関する運用ガイドライン

2005年にフロリダ州を襲ったハリケーン・カトリーナ、2009年のスマトラ沖地震、2010年のハイチ地震、そして今年3月には東日本大震災——、どれも記憶に新しい自然災害です。その復旧・復興にあたる過程で、被災者はさまざまな人権侵害に直面することがわかってきました。

そこで、国連によって1992年に創設されたIASC（関係機関常任委員会）は、このほど人権擁護の視点に基づく「自然災害時の被災者保護に関する運用ガイドライン」をまとめました。内容が多岐にわたっているので、ここでは浮き彫りになった人権課題を紹介합니다。



自然災害時に被災者保護で浮き彫りになった人権課題（要約）

- 犯罪の増加、二次災害など安全と安心の欠如
- 女性に対する暴力
- 援助やサービスの不平等、差別
- 子どもへの虐待、育児放棄
- 子ども、高齢者、障がい者など生存のために家族の支えを必要とする人の家族との離別
- 個人情報資料の紛失、破損、再取得の困難
- 雇用や生計の手段を得る際の不平等
- 強制的な移住や望まない状態での帰宅、再定住
- 土地の不返還、居住権の喪失 など

■ 全文（日本語訳）は下記よりダウンロードできます。
http://hrn.or.jp/activity/IASC_OPERATIONAL_GUIDELINES_J_combined_draft%20lms_v2.pdf

日本発

男女共同参画会議（内閣府）が提言発表

— 男女共同参画の視点からの東日本大震災への対応について

防災における男女共同参画の推進は、国の「第3次男女共同参画基本計画」でも重点分野の1つです。そこで、東日本大震災への対応にあたり、男女共同参画会議（内閣府）は、政府に対し被災者支援や復旧・復興の過程において、男女のニーズの違いへの配慮や女性の参画促進など、一層の取り組みを求める提言をまとめました。

提言の内容（要約）

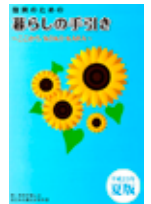
1. 国・地方・地域など、あらゆるレベルの政策・方針決定過程に女性の参画を拡大すること
2. 女性の視点に配慮しながら子育てやDVを含め女性のさまざまな悩みへの取り組みを充実させること
3. 復興の検討やまちづくりのプロセスにおいて女性の参画を進め、女性、子ども、障がい者等を含めて多様な国民の意見、生活者の声を反映していくこと
4. 東日本大震災の対応について男女共同参画の視点から検証し、防災分野での取り組みを総合的かつ効果的に進めていくこと
5. 被災時における女性、子ども、障がい者などへの配慮につなげるため、普段からの地域における男女共同参画の推進を積極的に進めること

■ 全文は下記よりダウンロードできます。
http://www.gender.go.jp/pdf/saigai_17.pdf

第一東京弁護士会でも

— 「復興のための暮らしの手引き」を公開

第一東京弁護士会では、東日本大震災を受けて、被災者のこれからの暮らしに役立つ制度や手続きなどをまとめました。各カテゴリーにさまざまな情報が掲載されています。



カテゴリー 公的証明、家族、子ども、お金・住む・暮らし、働く、外国人の方、生活保護、連絡先一覧

■ 全文は下記よりダウンロードできます。
<http://www.ichiben.or.jp/shinsai/kokokara/>

女性プラザ information

利用案内

女性プラザでは、講座の開催や図書の貸し出しなどを通じて、情報提供を行い、市民の交流・ネットワークづくりを支援しています。

相談

女性が抱えるさまざまな問題を自ら解決するための支援をしています。

- 女性のための相談（予約制・第1～4の月・火・木）
- 女性のための法律相談（予約制・月2回）

開所時間

月～金 8:30～17:00（土・日・祝・年末年始休み）

講座・イベントのお知らせ

- | | | |
|---------|-----------|---|
| 平成 23 年 | 11月12日(土) | インフォメーションカフェⅡ
「印象力をUPするパーソナルカラー講座」 |
| | 11月26日(土) | 映画会
「ボルベール〈帰郷〉」 |
| | 12月3日(土) | インフォメーションカフェⅢ
「子育て世代のHappyマネー術
—知っておきたい暮らしとお金の基礎講座」 |
| 平成 24 年 | 2月18日(土) | ひとひと女と男うらやすかがやきフォーラム |

詳細・申し込みについては、広報うらやす、浦安市ホームページ等でお知らせします。